

学校教育自己診断の結果と分析[平成28年1月実施]

【生徒】

- ・少人数展開を行い、基礎的・基本的な学力と技術・技能を定着させる学習指導を推進した。普通教科の授業は分かりやすいという生徒が昨年は65.8%、今年度は70.1%と4.3ポイント増えており、少しずつ効果は表れている。
- ・考査時に試験勉強をしているかという問いでは、肯定的な意見は昨年比9%アップしているが、依然として54.4%と低い状況である。一方、実験実習などへの評価は昨年比7.2%下がっているが、71.2%の生徒が肯定的な意見を持っている。この差が生じた要因の精査と改善策の検討が喫緊の課題である。

【保護者】

- ・学校の特色・家庭との連携・進路指導・生活指導の肯定が高い（約80%）のに対して、授業が分かりやすい(56.4%)・家庭学習ができている(36.7%)など、学習については低い数字となっている。

【教員】

- ・習熟度別授業の実施について、70.7%の教員が肯定している。方策を検討したい。
- ・到達度の低い生徒に対する全校的取組みについて、肯定53.6%と低い値となっている。基礎的・基本的な学力を身に付けるという観点から、対策を擁する問題である。
- ・子どもとの意思疎通ができているという問いに対し肯定は3.5%アップし、85.9%となった。一方、担任以外にも気楽に相談できる先生がいるという問いは2.8ポイントアップしているものの48.7%に留まる。カウンセリングマインドを持って生徒指導に当たることの意味を全教職員が再確認するとともに、生徒が教育相談を有効に活用できるよう、啓発に努めることも必要である。
- ・他の学校にはない特色がある、生徒指導は組織的に対応できているという問いには、ほとんどすべての教員が肯定的に回答しているが、本校の工業教育は現状のままでよいという問いには58.6%の教員が否定的な回答であった。本校の工業教育をどのような方向に進めていくのか、今一度熟考すべき時期に来ている。
- ・資格や検定取得、クラブ活動、ものづくりについてはほとんどの教員がより活発に行うべきだと考えている。クラブ加入率やものづくり活動などにより積極的に取り組みたい。
- ・生徒の個人情報に関する管理システムができていることについては肯定が43.9%である。教職員全体へのシステムの周知や習熟に関する研修の充実が課題である。